

100 多発性骨髄腫における²⁰¹Tl全身シンチグラフィ

の有用性の検討：骨シンチグラフィとの比較

清水正司、渡辺直人、瀬戸 光、藤山昌成、呉 翼偉、永吉俊朗、神前祐一、柿下正雄（富山医薬大 放）

多発性骨髄腫の骨、骨髄病変の診断および治療効果判定における²⁰¹Tl全身シンチグラフィの有用性を検討した。

多発性骨髄腫の患者8例に延べ12回にわたり²⁰¹Tl全身シンチグラフィ(²⁰¹TlCl 111MBq、静注10分後撮像)を施行し、骨シンチグラフィの所見と比較した。²⁰¹Tl全身シンチグラフィの初回検査結果の内訳は正常3例、集積増加5例であった。骨シンチグラフィで集積欠損、²⁰¹Tl全身シンチグラフィで集積増加を示し、病変の存在を指摘できたものが3病変、2例に認められた。また3例では治療効果を判定できた。多発性骨髄腫の骨、骨髄病変の評価に骨シンチグラフィとの併用で²⁰¹Tl全身シンチグラフィが有用であり、また治療効果の判定も可能であると考えられた。